

そこ迄はしなくても良い

四月十一日 土曜日

机に向かって、勉強の予定を立てた。

日記を書く時間がない。

もう三ヶ月すぎた、最初の約束は実行した。

一日、二十四時間、
事実上、睡眠時間を除いた十五時間、
その時に起った色々な事を、一分で読めるこの一日ぶんの日記、
そのわずかな時間も、もう僕はおしい。

読むのは一分だけど、書くのにやはりかなり時間かけた。

たまたま、本屋で見つけた、この日記帳。
まだ、半分以上が白紙。

もし、毎日、一ページだけでも、欠かさず書き続けて、
一生、約五十歳迄続けると、
一年三百六十五日で、あと三十五年で
一万二千ページになる。

そこ迄はしなくても良い。
それでも、二千ページの大長編は可能のはず。

それが書けないのは、なぜだ。
自分の人生、書くに値せず、平凡すぎるからか、
それとも書く気がないからか、自分が怠慢なのか。